

平成26年度 卒業式 式辞

皆さんご卒業おめでとうございます。

本日ここに、ご来賓の田宮正道名古屋市副市長をはじめ、同窓会や後援会の方々のご臨席を賜わり、教職員一同とともに、卒業生の皆さんに卒業証書、学位記を授与する運びとなりました。これまで日夜研鑽を積んでこられた皆様に敬意を表するとともに、心よりお慶び申し上げます。併せて、ご家族ならびに関係者の皆様からいただいた数々の厚いご支援に対し、大学として深く感謝申し上げます。

本日は、「愛と未来」をテーマにお話しさせていただきます。

皆さんが入学されたのは、医学部や薬学部など一部の学生を除いて、4年前の東日本大震災の年でした。入学した喜びと被災された方々への思いが交錯し、生涯忘れることができない年であったろうと思います。この4年間にはさらに、原発事故、国際テロ、貧困や格差、虐待などがあり、私たち日本国民は命の尊さと、人と人の絆の大切さを思い知りました。皆さんも、少なからず震災復興に携われ、その経験はこれからの人生においてかけがえのない糧になることでしょう。

式が始まるまでの間会場には、歌手キロロさんの「未来へ」を流していただきました。この「未来へ」を聴いて、私はしばしば勇気をもらってきたからです。皆さんには少し古い曲かと思いましたが、今年3月上旬にNHKのど自慢チャンピオン大会で、沖縄の20歳の女性が歌われた「未来へ」が観客の心を魅了し、優秀賞をとられたので、本日の卒業式で使わせていただきました。

「未来へ」の歌詞の中から、心を打つ2つのことを話したいと思います。

1つは、今日まで皆さんを育ててこられたご両親やご家族への愛と優しさです。この深い感謝の念をいつまでも持ち続けていただきたいと思います。

2つ目は、あなたの歩む道についてです。若者が未来に向かって歩む道については、ドイツの哲学者ニーチェも同様に、「世界には、君以外には、誰も歩むことのできない唯一の道がある。その道はどこに行き着くのか、と問うてはならない。ひたすら進め。」と言っています。卒業生の皆さん、貴方の未来は希望に溢れています。時には試練もあることですが、夢を抱いて未来を切り拓いて下さい。

ところで、本学は今年開学65周年を迎えます。本学は、130年前に創立された名古屋薬学校と72年前に創立された名古屋市立女子高等医学専門学校を源流とし、これら2校が昭和25年に統合して開学されました。その後、昨年50周年を迎えた経済学部、今年20周年を迎える人文社会学部と芸術工学部、そしてこの数年以内に20周年を迎える看護学部とシステム自然科学研究科の6学部7研究科からなり、それらのすべてが全国でも有数の学部となった現在、これからは学部間の壁を越え、オール名市大として、教職員・学生が心を一つにして明るい未来に歩まねばなりません。

その思いを込めて、昨年10月28日の開学記念日に、「大学憲章」を制定し、それを基に、本学の15年後の明るい未来を展望した「名市大未来プラン」を策定し、学内外に公表しました。15年後と言えばずいぶん先のことのようにですが、名古屋市にリニアモーターカーが開通しており、街は大きく変貌していることでしょう。一方、わが国の大学は現在、少子高齢化・経済の低成長など、急激な社会変化の下、大きな変革期にあります。このような動静を踏まえ、本学は、大学としての本質を見失わず、時流に流されることもなく、

絶えず進化し、世界に大きく飛躍せねばなりません。そのような大きな目標や夢に向けて、すべての教職員が心を一つにして歩む、その道しるべが「名市大未来プラン」であります。皆さんが名市大から社会に巣立った後にも、折にふれ、ホームページなどで未来プランの詳細を見ていただき、その実現に向けて温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

未来プランには、4つのビジョンと52のプランを掲げています。4つのビジョンとは、「誇りを持ち愛される名市大、戦略性を持って世界に飛躍する名市大、名古屋市と共に発展する名市大、経営基盤が安定した名市大」です。私はその中で、「誇りを持ち愛される名市大」がもっとも大切だと思っています。なぜならば、私たちが崇高な教育・研究・診療をすることが、延いては市民や学生、教職員、同窓生の方々から名市大を誇りに思い、愛されることに繋がるからです。このことは、本日皆さんが名市大を卒業されることにより、家族の方々から誇りに思い、家族愛が強まることと相通じるものであります。

名市大は輝かしい伝統のもと、教育・研究・診療のすべてにおいて、世界に冠たる大学として飛躍してまいります。皆さん、そんな母校に誇りを持ち、愛し続けていただくようお願いいたします。

本学が65周年を迎えるにあたり、今年の秋、開学記念事業を展開していく予定です。祝賀会だけではなく、地域の方々と連携し、国際的に展開する事業を企画します。また今年だけに終わるのではなく、70周年80周年へとつなげることにより、「名市大未来プラン」が着実に実現され、世界をリードする総合大学を目指してまいります。

これらの背景を踏まえ、皆さんにお願いがあります。

それは、これまでの同窓会は、どちらかと言うと、学部ごとの活動が中心でしたが、これからは職場あるいは地域ごとに同窓会の支部を作っていただきたいことです。全国的に、いずれの大学でも、若い人達が同窓会に参画しなくなっていると言われていています。皆さんには同窓会に積極的に参加され、名市大の新たな核となっただくことを切にお願いいたします。

ところで皆さん、学校教育法が昨年6月に改正され、この4月から施行されることをご存知でしょうか？ その主な改正点は、学長の権限が強化されることで、スピード感を持った大学運営や、未来を見据えた大学改革が求められています。学長としての権限が強まることは、延いてはその責務が重くなることで、私は学長として、広い視座に立った賢明なる大学運営をすべきであると身が引き締まる思いでございます。

そんな折、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」で注目されたピーター・ドラッカーの「マネジメント」を手にする機会がありました。「マネジメント」とは管理や経営の意味ですが、ドラッカーの著書は単なる経営学の本ではなく、そこには人と人とが共に働くことの喜びや、人の幸せなど、普遍的なことが書かれており、ドラッカーが未来学者とも言われる所以であります。その著書の中に、「Management is doing things right ; leadership is doing the right things.」、すなわち「マネジメントとは物事を正しく行うことであり、リーダーシップとは正しいことを行うことである」があります。学長である私にとって重みのある言葉です。

そのドラッカーの言葉の中から皆さんに送りたい一文をご紹介します

ます。「The best way to predict your future is to create it.」

すなわち、「皆さんの未来は、皆さん自身が切り拓くことにより、輝かしいものになるのだ」と言っています。このことは、各市大が明るい未来を築くためにも重要なことなので、もう一度その言葉を言います。

「The best way to predict your future is to create it.」です。

本日は、「愛と未来」をテーマにお話をさせていただきました。皆さんの卓越した才能を遺憾無く発揮され、母校各市大に光を当てる人材になっていただくことを心より願って、私からの式辞といたします。

本日はまことにおめでとうございます。

平成27年3月25日

名古屋市立大学 学長

郡 健二郎